

# 2000年5・30声明 ／日本赤軍

# 国境を越えて連帯し、 人民の知恵と 力を合わせて 共に闘い 続けよう！

エルに占領されていた地域の解放を自らの力で日々闘い取っています。私たちは、レバノン人民の正義の闘いに連帯し、新たな決意を込めてこの声明を発表します。

—JRAとレバノン人民の連帯を、日本人民とレバノンアラブ人民連帯へと広げよう。

一、私たちは、リツダ闘争に始まる連帯を、新たな地平においてさらに「人民の連帯として育てます。

「私たちは、リッタ闘争に始まる連帯を、新たな地平においてさらに人民の連帯として育てます。」

二〇〇〇年の五月三〇日、リッダ空港襲撃作戦二八周年を迎えて今、私たちは新しい闘いの地平に立っています。二八年前、作戦を戦い抜いた岡本同志は、レバノンで初めて「政治革命者」として解放され、「アラブレバノン人民の懐に帰り、皆に支えられて生活しています。一方、四人の同志たちは、国際法にも違反する日本政府の拉致行為と、アラブの大義を何度も裏切ってきましたヨルダン政府の陰謀の加担によって、日本の獄中に拘束されながら、日本の地を基点とする新たな闘いを開始しています。私たちにとって日本をも戦場とする新たな国際連帯実践の始まりを創り出しています。私たちには、リッダの戦士達の残した最期の言葉を覚えています。

「裸足で遊ぶこの子供たちが我々の闘いのあとに続くだろう。国境を越えた闘いは日本の革命を保証し、日本革命は世界の人民戦争をおし進める。日本の友人たち、行動と犠牲の上に燃えている革命の歴史を継承し、世界の友人とともに進め!隊伍を整えよ、敵は一つだ。我々は日本人民の誇りをもつてパレスチナ人民との戦争にいく。葬列を繰り出しな。ただ祭りを。我々と世界革命の友人たちのために」。

彼らの願いが今、一九九七年の逮捕を契機として、そして二〇〇〇年三月一七日の五同志を分断したときから、解き放たれたエネルギーは私たちの新しい国際連帯の役割を創り始めています。かつて、敵との攻防の結果として非合法を余儀なくされ、非公然に結びついていたJRAとアラブ人民の連

帶は、人民性と政治性をもつて公然と正義と公正を求める国際連帯として成長し始めています。私たちはこの人民連帯をリツダ闘争は、共通の運命におかれた者同士の連帯として、自己犠牲の精神をもつて闘い抜かれました「連帯はローマの市民と剣闘士のような、観戦する者と闘う者という関係であつてはならない。運命を共にしよう。」「第一、第三のベトナムを！」といふチエ・ゲバラの呼びかけに応えて、私達はアラブの地に来ました。

**四、新たな敵の策動に国際連帯実践で  
共に国境を越えて闘おう。**

中東における国際資本のグローバリズム支配の要としてのイスラエルの役割が明確になっています。今、アメリカの新しい世界秩序形成の企みと、それに反対する勢力の攻防として二〇世紀の最後の年を迎えていきます。

（略）

中東地域の安定は、イスラエルの動きが大きくなきました。今年は、公正と改革を求める動きが大きくなっています。ハバナで開かれたカ国グループの首脳会議は、「公正なルール」の実現を目指す展開、貧困の根絶、雇用政策の実現、ジェンダーの平等化など、多くの問題を抱えています。

中東における国際資本のグローバリズム支配の要としてのイスラエルの役割が明確になっています。今、アメリカの意図を阻止するために公正と改革を求める議論が閣僚会議でなされました。今年は、国際社会がこの問題に注目する年となりました。

新しい世界秩序形成の企みと、それに反対する勢力の攻防として二〇世紀の最後の年を迎えていました。

中東地域の安定は、イスラエルの占領と侵略政策をあらゆる方法で止めさせ、和平のテーブルから逃げ出したイスラエルを正義と公正な秩序によつて統制する人民の知恵と力をあらわす戦線でつくり出します。その闘いは、国際資本との闘いに連なつています。

昨年のシアトルにおけるWTO反対闘争はグローバル化に対する人民闘争の転換を画すものでした。この闘争を通じて、環境、人権、フェミニズム、民族主義、労働な運動などの諸戦線がひとつになつたばかりでなく、人々と南の国々は「先進工業国」(帝国主

…(略)…

ジエンダーの平等合を通じて不均衡の止する新しいグローバル秩序」の創設を呼びます。ハバナで開かれたカ国グループの首脳会議は「公正なルールの実現、貧困の根絶、雇用の創出、女性の権利の確立、環境保護のための行動計画」を採択しました。

五、新しい世界秩序を求めて共に

二〇〇〇年七月

で最大規模の米軍遠洋艦艇体制の中、G7プラスサミット会合が開かれています。

日本政府は国連安理会入りをめざして、日本の名目で海外派兵との戦略同盟を強化の盟主としての役割を担います。

五、新しい世纪に向けて、国境を越え、連帯  
求めて共に前進します。

二〇〇〇年七月には、世界で最大規模の米軍海外基地のある沖縄で、戒厳令並みの警備体制の中、G7プラス1のサミット会合が開かれようとしています。

日本政府は国連常任安保理事国入りをめざし、「国際貢献」の名目で海外派兵し、米国との戦略同盟を強化し、アジアの盟主としての役割を強化

しようとする一方で、アフリカ諸国などが求めていた債権消しには消極的な態度とっています。イスラエルは中東で果たしているのと同じ役回りをアジア太平洋地域で果たそうとしているのです。

日本は二世紀に如何なる役割を果たすべきなのでしょうか？ 国際的な視野で考